

平成27年度医療・介護連携推進研修会アンケートの意見等

平成28年3月26日開催

1. アンケート回収 101名（出席者：204名 回収率49.5%）

2. 医療・介護の連携についての意見等

- ・「連携」という言葉は、職種や環境により、それぞれ「具体的イメージ」が異なるという難しさを感じる。今日のGWを機に、今後「何」をするか？という具体的な活動（行為）が明確になると良いと思う。それは職種ごと、サービスごとに違って良いのだから。企画、運営ありがとうございました。
- ・「連携の意義」について各職種で捉え方が違うことを知らされました。「医療・介護の連携」はまだ始まりの半歩にもなっていないと思います。これからどんどん関わっていく中で、意識を持つことが大事なのかと感じました。
- ・病院の種類と役割について（地域の病院で、どんな機能でどんな役割なのかわかりづらい）
- ・主治医の理解が連携をとる上で重要だと感じます。特に入床機能のある病院Drもまきこんだ取り組みも実施して欲しいです。
- ・今回のような研修会を年に数回開催し、旭川市として行政としてどんどん地域ケアシステムを行っていかないと、間に合わないのではないかと思います。市民への働きかけを行えるといいなと思います。
- ・このような研修に出てこられる医師の方は連携しやすい先生なのだと思います。出てこられない先生や介護に関心をもってくれない医師の方との連携が大変です。最近では、認知症ばかりでなく、65前後の精神疾患の方も多くみられています。精神科病院への受診についてや、ボーダーライン的な方の対応、医療機関との連携方法などが知りたい。医師はどうしても忙しいのでは…と思い関わりを遠慮してしまいます。病院側も積極的に関わってほしい。病院の相談窓口をはっきりと示してほしい。
- ・退院前のカンファレンス、在宅医療（訪看、訪問診療など）の充実がより必要になると思います。
- ・どのような連携をとるのか？病院から退院時と病院での情報を在宅に関わるケアマネさん、ヘルパーさん等とディスカッションをとってほしい。患者さんが住みなれた自宅ですごすことに安心をとるために連携をとるリーダーはだれなのか？患者さんのかかりつけ、連携のまとめ役を決めてほしい。その総合職リーダーがその患者さんに必要と思われた生活、家での移動（トイレ、ベットから）、入浴を安全におこなうための道具、方法など専門職、OT、PTをコーディネートする。生活保護をうけている方で、とにかく入院したがる人がいます。一人暮らしで家族もいません。入院すると食事も出てくる、入浴もできる、リハビリもおこなってもらえる、優しい声もかけてくれる、話相手のいる、在宅より心地よいですね。それでは、本当は良くないですね。私は高齢者の共同生活ができるハウスは、安心できる食事、入浴、治療、介護ができるのであれば、共同生活の場は必要ではないでしょうか？
- ・予防の段階から訪問看護に入ってもらおうと話など…早目の対応の必要性を学んだ。自力…最後は自分で決定できることなど大切と感じます。
- ・多職種の各々が、共通の目標を持ってそれぞれ責任をはたすことで、ベースができると思います。
- ・施設と医療機関のむすかしさ。以前診ていただいた病院のDrはいつでもかけてくれ、看取りもまったく問題なかったが、今の病院は亡くなるときに病院に運ばなくてはならない。とてもいやだ。
- ・様々な問題を相談できる窓口が必要だと感じました。
- ・顔の見える関係をつくられていくことが大事だと思います。
- ・在宅医療を支える体制がまだ不十分。看取り対応してくれる医療機関の充実が望まれる。グループワークの時間が足りなかった。せっかく行うのであればもう少し時間があれば良かったと思う。少ない時間に詰め込みすぎではないか。
- ・（連携）難しいけどやらなければいけない事。顔の見えるように!!

- 社会資源の役割や活動の再認識と連携活用について一度原点にかえってほしいと思います。私は老健職員ですが、全く本来のキノウが果たされず、特養化していたり、慢性的な空床が生じています。老健は、看取りと在宅復帰の両面を支援するため、地域包括ケアシステムとして活用が見直されるべき資源だと思っています。地域ネットワークに老健を積極的にとり入れていただきたいです。
- 「連携」ということを全ての職種が意識していれば、連携出来るのではないのでしょうか…。まだまだ行き届いていない気がします。
- 難しい研修会でしたが、なんといっても、人がする仕事です。笑顔、やさしさが一番だと思います。良い事ばかりやっている相談員でも、心がない、そんな人が多いと思います。やさしさにつつまれながら死ねたらいいですね。
- GWでメンバーが帰ってしまい3人のGWでした。
- 以前と比べるとかなり良くなっていると思います。一人一人の意思が大切。
- 介護員が医療行為が出来る研修の拡大など
- 医療・介護でカンファレンスなど行い、利用者様一人一人に合ったケアを行って行けたらと思います。
- 各包括単位ぐらいの連携についての研修や連携の場があるといいと思いました。
- 旭川市のルール作りが大切。会の持続をお願いしたく、旭川の「幸せ」、みんなの、自分の「幸せ」のため、老後のため、よろしくお願いします。
- 今後も、このような研修会があれば良いと思う。連携においては、病院のスタッフ（MSWだけでなく）も研修会に参加していけるようになれば良いのではないかと。（日頃、在宅スタッフと病院スタッフの温度差を感じるため…）
- 顔の見える関係作りとしての研修、グループワーク等はネットワークの土台になると思います。このような研修会の継続も必要だと思います。
- 現在HPでの勤務で、当HPで、終末を終える患者が殆んどであります。看取りについての対応を、今後も深くマネジメントしていこうと思います。
- 訪問診療を重視する医師が増えればいいです。
- 旭川の現状が少しみえた感じがした。私達がやるべきこと、職種に関わらず周りを見て協力することが大事と感じた。
- 医師・薬剤師・介護職・看護職など多くの専門職がこんなにたくさん集まり、ディスカッションしている場面に立ち会い、ちょっと感動しちゃいました。意見でなくてすみません。
- このような会を開催頂き有難うございました。他職種の意見が参考になりました。
- まずは情報共有だと思いますが、各々の職種で情報のもつ意味のとらえ方が違う、温度差を感じる事はあります。担当者会議の中でケースカンファレンスができたら共有理解がすすむと思います。
- 普段なかなかお話しすることの少ない訪問看護の方やケアマネジャーの方と実際の現状について話し合うことができてとても貴重な時間になりました。
- 現状をしっかり各職能団体が把握し、顔を合わせ会話で確認し、積み重ねてゆくことが大切と思われる。
- 国では在宅へ向けての方向性だが、受け皿が不十分な状況が多々ある。特に訪問診療を行ってくれるDrが少なく、高齢なDrが多いため身体的・精神的に負担が多い。
- コーディネーターの重要性を感じた。町内等にもわかり易く説明してほしい。
- 徐々に連携ができてきている事は感じていますが、まだまだです。一人一人の高齢者が自分らしく最期をむかえられるようになるよう支援して行きたいと思っています。

- 薬剤師や歯科医などが在宅の場に支援として関わってもらえることは心強いと感じます。
- 医療→介護→医療での連絡といっても知らない部分（患者様の生活場面での困ったこと）がたくさんみれたことを、今後共協力していけたらと思いました。
- 多職種の方とディスカッションでき、いい機会でした。
- 包括センターの重要性を改めて感じました。医療・介護の重要性を改めて感じました。医療・介護の連携には、行政の役割も大きいと思う。サービスを利用するにあたり、住民に周知するのは、役所がいちばん出来るのではないか。
- 訪問看護や訪問診療につなぐ事例が自分にはあまりなかったが、今後は増えてくると思うし、必要と思うので、スムーズにつなげていけるようになると良いと思います。まだまだ連携には遠いような気がします。行政はどのような事をしているのでしょうか？
- 自分らしい生活を送るための環境作りとして、医療と介護が連携することで情報共有が図れ、在宅、医療機関、介護施設への利用が迅速化
- 連携は大切な事ですが、それに関する時間が効率的である事は、やはり大事だと思います。
- 行政のところまでどこまで考えているかみえにくい。医者が少なすぎるので、在宅に力をいれようとしても限界が出てくるので、医者になりたい教育システムも考えていただきたい。
- 今の世の中健康で年をとられた方よりも、病気をもち年を重ねた方が多い。その方々が、健康に過ごせる関わり、その人が病気になり介護が必要となった際、家族がとまどう事なく安心して利用してゆけるサービスを考えていってほしい。
- 旭川市内でのルールを作って欲しい。
- 在宅重視の医師が増えてほしい。そのための報酬が増やされるべき！介護員が、小さな施設であっても、医療作業、研修が受けられる門戸を開いてほしい。
- いつもケアマネの「レベルアップ」と云われますが、ではどんなケアマネジメントが良いのでしょうか。何がケアマネに足りないと感じているのでしょうか。連携にはケアマネが中心になると考えて良いのでしょうか。
- パネルディスカッションはもう少し長い時間をとって旭川市の課題について掘り下げてほしかったと思います。多職種の人が参加されたのは良かったです。
- 日々の取り組みにおいて、悩み、問題点が発生した時に相談できる環境に発展してゆく事から始める連携が良い。又、情報の一元管理とその維持の為の工夫策が必要。
- 他業種、立場の方の仕事や考え方を聞いて、とても勉強になった。
- 初めて参加しましたが、医療と介護の連携、とても重要な事と考えます。これからも継続していただきたいと思います。
- 他職種の方の意見がきけることが連携につながると実感でき、有意義な時間をすごせたので、こういった機会は今後も必要と感じました。できれば各テーブルに1名ずつ医師か歯科医師が参加していただき、意見、考えをきいていただければもっと連携が深まるのではないかと思います。
- 連携は、必要な時に早急に集まれる事が大切。新しい情報を素早く、関係者に広めていく事だと思った。
- 医療・介護に関わる者は、多種・多様であり、それぞれの課題、ストロングポイントがあると思われる。それぞれの立場を理解していくことが、専門性の発揮につながると思うため、このような機会は重要だと感じる。何よりも「顔の見える関係性」が連携に必要なこととの認識を広めていきたい。
- 連携に関する研修は沢山あるが、医療と介護だけではなく、行政や地域との連携も今後必要になってくると思いました。一体になって高齢者を支えていくシステムが必要だと思いました。
- 専門職同士での連携がうまく取れ、本人の希望できる生活ができることはとても良いと思います。突発的な時にも、すぐ対応できる良いつながりが持てればと思います。
- 病院勤務のため、旭川市の連携における他職種の意見を多く聞いたことが、かなり勉強になりました。今後もこのような場を設けてくださることを希望したいです。今後ともよろしく申し上げます。